

平成八年度
大学図書館研究会
於 共愛学園女子短期大学

去る十月三十日(水)、共愛学園女子短期大学(学長・徳江健氏)を会場に、標記研究会が本協議会と群馬県図書館協会との共催により実施された。今回の研究会は、平成六年の第一回開催以来、第三回目となり、「図書館利用教育」をテーマとした。

平成六年三月新築された図書館の建物は瀟洒な外観を呈し、図書館入口前庭、緑の芝生のベンチで憩う女子短大生。一階入口のドアを開けると、広々とした館内、整然と並ぶ書架、明かり窓のステンドグラスが外光に彩りを添えていた。

会場となつたのは管理棟二階会議室。研究会に先立ち、主催者を代表して、本協議会会长群馬大学附属図書館永倉一郎館長、県図書館協会からは群馬県立図書館大山達郎主幹、続いて会場館である共愛学園女子短期大学図書館羽鳥謙三館長の挨拶があつた。

研究会の基調講演として、群馬

大学教育学部所澤潤助教授が「大学図書館利用教育について」と題し、スライドによる説明をまじえ、ほぼ五十分話された。所澤先生は、現在群馬大学附属教育実践指導センターで教鞭をとられており、図書館資料についても造詣が深く、講演の中でも、ご自身の資料との、また図書館との関わりについて言及された。特に、教育学を研究されている立場から、人文科学系と理工系の図書館資料そのものに対するスタンスの違い、利用方法の違いを明らかにされた。利用教育において第一に考えなければならないのは、図書館を介して国内外の資料が入手可能であることを利用者に強くアピールすること、また、司書としての資質、すなわち資料への理解、専門知識を磨くことが、ひいては利用者教育に結びつくという指摘は心に響くものがあつた。

講演終了後、講師を交え質疑応答。そして、事前に行われたアンケートをもとに、BDS、図書の廃棄等各館の抱える問題について熱心な意見が交換された。研究会終了後は、図書館に戻り、各館作成の利用案内等の展示コーナー、館内の見学をおこなつて散会した。

本学はご承知の通り、昭和六十三年開学して今年で九年目で歴史も浅く、しかも平成六年の増築にともない図書館もできたてなので、中身の充実はこれから課題です。ご覧頂いたようにもっぱらいれものが新しいということだけを強調するばかりです。一昨年の新図書館設置に当たりましては、将来のためにまずスペースをといふわけで蔵書の増加や機械化・情報化にそなえてのことは考えたものの、中身の方はまだ端緒の段階です。蔵書数は三万に満たず、ごく最近端末機三台が入ったところですが機能的に使いこなしていくけるのはこれから段階です。なにし



ろ設立早々情報化の波にさらされていることでもあり、学内での有効利用、とくに学生の効果的利用や利用者数の増加などの課題をめぐつて図書館の二名の職員にはたいへんに努力をしてもらつて現状です。いろいろやり方の上でまだ試行的なことも多くあります。こういう状態のところなので強いて次第です。今回の協議会においても群馬大学図書館協議会の会員に連れて頂いていることは非常に心強い次第です。今回の協議会においても群馬大学の所澤先生による講演「大学図書館利用教育について」という図書館当事者にとつてきわめて参考になる具体的なお話を聞くことができ、また協議の相互交流を通して多数の貴重なご意見に接することができました。こういう情報交流は本学の図書館運営に当たつて役立つこと多く、その中からいざれ将来は本館の特性もなんとか打ち出していきたいものと考える次第です。

会場になりました本学の会議室がせまくてせつかくの講演や討議に何かとご不便をお掛けしましたが、今後ともよろしくお願い申し上げたいと存じ、会場館のご挨拶に代えたいと思います。

大学教育学部所澤潤助教授が「大学図書館利用教育について」と題し、スライドによる説明をまじえ、ほぼ五十分話された。所澤先生は、現在群馬大学附属教育実践指導センターで教鞭をとられており、図書館資料についても造詣が深く、講演の中でも、ご自身の資料との、また図書館との関わりについて言及された。特に、教育学を研究されている立場から、人文科学系と理工系の図書館資料そのものに対するスタンスの違い、利用方法の違いを明らかにされた。利用教育において第一に考えなければならないのは、図書館を介して国内外の資料が入手可能であることを利用者に強くアピールすること、また、司書としての資質、すなわち資料への理解、専門知識を磨くことが、ひいては利用者教育に結びつくという指摘は心に響くものがあつた。

会場長 羽鳥謙三
共愛学園女子短期大学図書館長
羽鳥謙三
会場館図書館長あいさつ

群馬県大学図書館協議会会報

第2号

1996年11月30日
群馬県大学図書館協議会発行
〒371
群馬県前橋市荒牧町4-2
群馬大学附属図書館気付
TEL 0272-20-7178
FAX 0272-20-7184

1996年11月30日

「大学図書館利用 教育について」

○大学図書館利用 教育について

平成八年度大学図書館 研究会基調講演

群馬大学教育学部助教授
所澤 潤

以下は基調講演をもとに内容を
再構成したもののです。

○大学図書館は全国への窓口

—第一に教えるべきこと

さて、そこで、こうした状況を踏まえて利用者教育として、第一に何を教えるかですが、大学図書館というのは、全国の図書館、博物館、文書館への窓口だというのが、一番大きな機能で、それを理解してもらうことが、非常に重要なと思う。全国的なシステム、あるいは国立大学のレベルでは、他大学の図書館の本を借りるということができるとか、国立大学共通とができます。県単位でも、相互閲覧証を持つて他の大学に行くことができます。県単位でも、相互に照会をすると、コピーを頼むとか、図書館専用便を利用するとか、いろいろあるわけですね。それから、大学図書館は、図書館以外への窓口―博物館とか、文書館では大抵知らない。それを学生に強く、強く言う必要があると思うのですね。全国の図書館網に対しても、自分の大学の図書館というの

はどういう図書館なのかを理解する。これが非常に重要なのです。

○司書の資質こそが 利用教育に有用

最後に、司書の資質と図書館利用教育、ということに、入つてまとめたいと思います。利用者は何で教育されるかということなんですが、司書の持つているノウハウを感じるのではないと思うんですね。

—第一に教えるべきこと

一つは、司書の人が、図書や雑誌に対してどのくらい興味をもっているかだと思います。どのくらい幅広い教養をもつていて、自分はこういうことに関心を持つている、というような話をすると、研究をやっている人と接点ができるてくる。それから学生なんかでも、図書館に行つて司書の人とこういふ話ができる面白かったとか、そういうふうなことが結構あります。いくのではなく、自分が司書として、どんな存在なのか、又、研究者との接点を持ちうることを感じるところが、学生サービスにおいても大切

今日お話しすることは、人文系の人がどういう図書館の利用の仕方をしているか、という話なんです。図書館の利用とか理解が深まつていくのではないかと思うのです。自分自身を振り返つてみても、僕は図書館の使い方の教育を受けたわけではなくて、そういう経験を通してだんだん図書館を考えるよくなつたのだろうと思います。二つ目は、館固有の知識ですね。自分の図書館にはこういうものがいる、例えば、群大の場合だと、先程の植民地の資料があるというのも司書の方から教わったわけでも、こういうものが、このくらい

あつて、ここことこと、こういう風にバラバラに置いてある、と言わせて、それは何とかしなければならない、と思ったわけです。

—講演メモ—

紀要の存在・司書の存在・大学図書館の使い方を、学生の方に知らせる必要性。利用者への、アプローチの仕方を、図書館は常に点検する事が大切。教員の方にも、図書館利用促進の導き手として、大いに再認識していただく事が望まれる。

大学図書館は、全国の図書館・博物館・文書館への窓口

であり、図書館ネットワークを持つていて

司書は、専門的知識を絶えず磨き、自館の特色をはつきり掴むことが求められる

自分が司書として、どんな存

在なのか、又、研究者との接

点を持ちうることを感じるこ

とが、学生サービスにおいても大切

連携が、図書館利用を促進する。

今、益々の連携が、求められる。

現実問題としては、なかなか進まないけれども。

又、図書館を利用すれば、何を具体的にできるのか、学生に十分知らせる努力を重ねることが求められる。

学生の、利用者の方の立場に立つて図書館の仕事をしていくことを、再認識した講演でした。

(記 小山)

● 新加盟館紹介

群馬社会福祉短期大学図書館

館長 鈴出龍見

群馬社会福祉短期大学は平成八年四月に開校いたしました。

まず昌賢学園（学校法人）の由來をご紹介いたします。

昌賢学園は上杉謙信の子景仲が昌賢と号し、文教に尽くしたことから始まります。その後、慶應から明治にかけて長尾平次郎が前橋市に昌賢学堂を設立し、「忠」「孝」「信」「愛」に基づく「精神の修養」に重きを置いた教育を受けました。

大正二年、昌賢学園、現理事長の父、鈴木泰三が祖父平次郎の遺業を継ぎ、昌賢学堂を昌賢中学（旧制）と改め、青年教育に貢献いたしました。当時、私立中学としては県下唯一のものであります。そして、鈴蘭幼稚園を併設、児童教育にも着目いたしました。

戦後は女子文化の向上の為に、前橋女子商業高校、前橋栄養高等学校を設立するなど、実質共に群馬県教育界において先駆的役割を果たしました。

我が国では福祉従事者の資格制度が昭和六十三年四月に設けられました。

日本の二十一世紀初めには、国民の四人に一人が六五歳以上の超高齢化社会がおとずれます。この高齢化に伴い当然のこと、老人福祉問題がクローズアップされます。この問題に対処するために国民全體が真剣に取り組んでいくことは明らかです。

現在昌賢学園は、二十一世紀超高齢化社会へむけて、介護福祉士養成校として平成元年四月、群馬社会福祉専門学校を開校、保育福祉学科、健康福祉学科を併設、多くの人材を輩出しております。また、平成八年四月、群馬県下唯一の福祉系短大、群馬社会福祉短期大学を開学させ、時代の要請に応え、ますます充実した人材養成に力を尽しておられます。



加盟館 テピツクス'96

共愛学園女子短期大学

中学・高校の移転

共愛学園は、二十一世紀目前の一九九八年（平成十年）に、群馬県下最古の女学校として、創立百十周年を迎えます。このときに当たり、一層の教育内容の充実を目指して、中学・高校を市内小屋原町へ全面移転いたします。九八年四月の移転開学の予定で、既に本年九月に着工しており、校舎等の完成は九七年十二月となります。

スの拡張 二、事務室の新設 三、AV機器コーナー・PC端末コーナーの拡充 四、雑誌閲覧コーナーの移転です。
また、群馬高専図書館WWWもご覧ください。URL:<http://www.gunma.ct.ac.jp:8080/lhb/>

群馬女子短期大学

創立記念式典の開催

群馬女子短大では学園創立六十周年・短大創設三十周年の記念式典が十月十九日に行われ、あわせて記念誌が発行された。中で、図書館の将来・改善計画の重点項目、(一)施設設備の充実した図書館の構築 (二)情報検索とインターネットの利用 (三)他図書館との協力体制に重点をおいた運営を挙げた。この三点を柱に、これからもよりよい図書館づくりを進めていきたい。

群馬工業高等専門学校
図書館の改修工事について

群馬高専は五学科一、〇〇〇人、専攻科五〇人の学校に成長していますので、図書館も高等教育機関の学習図書館と同時に大学図書館

平成八年度第九回
ブッククリポートコンクール

昭和六十三年から開催されているこのコンクールは、本年度から感想だけでなく、課題を追求し、自己の意見や主張を客観的・論理的に述べるように改められ、その呼称も「読後感想文コンクール」から標記へと変更になった。

本年度の応募総数は一五三編（商六九編・経八四編）、その中から入賞者八名、佳作二五名が決まり、十一月一日（金）表彰式が行われた。

改修の要点は、一、閲覧スペー

各先生が選出した推薦図書五冊ほどの中で応募が特に多かつたのは、次の五点であった。

- 「日本語根ほり葉ほり」森本哲郎・新潮文庫
- 「自分らしく生きる」中野孝次・講談社現代新書
- 「日本の高齢者福祉」山井、斎藤共著・岩波新書
- 『野火』大岡昇平・角川文庫
- 『きけわだつみのこえ』新版第二集、日本戦没者学生記念会編

明和女子短期大学では、今年度末完成予定で東方館と呼ばれる新館を建設中で、この建物の二、三階に図書館が移ることになります。今まで手狭なため、情報資料の提供、利用が不充分な面もありましたが、今度はスペースに余裕ができるまで図書館として、充実した情報センター的役割を果たせるようにすすめられます。

明和女子短期大学 図書館の移転について

本学は、来年四月開学をめざして四年制大学新設を進めています。その一環として、図書館も改修を行い、この十一月一日から新規オープンしました。1Fが開架書庫、2Fが閲覧室、新規ソフト開発の検索用タッチパネルもお見えし、好評です。

前橋市立工業短期大学 生まれかわった図書館

石川 雄	貞由 錦子	教学課主任	高崎商科短期大学
川澤 丸	英純	館長	前橋市立工業短期大学
柴芝 崎田	富克敏	査事	〃
武梅 加山	曉	主事	〃
○退職	枝子	嘱託	〃
羽鳥 重光	○退職	員員	明和女子短期大学
上武大学	上武大学	臨時職員	〃
竹澤 七重	○退職	司書	関東学園大学
濱野 美樹	上武大学	資料運用係長	群馬大学
坂本 ひろみ	○退職	分館	工学部分館
吉原 茂	高崎経済大学	情報サー	〃
下村 智恵子	○退職	ビス係長	上武大学
松本 有由美	新井 寿郎	分館長	〃
	丸橋 和子	職員	〃
	小林 京子	臨時職員	〃

加盟館人事異動

○新任・配置換等	松本 峰雄	館長	育英短期大学
	坂本 武志	副館長	関東学園大学
	阿津坂林太郎	主査	〃
	新井 由紀子	書記	〃
	福士 奈緒子	書記	共愛学園女子短期大学
	羽鳥 謙	館長	桐生短期大学
	清水 理恵	員員	群馬県立医療短期大学
	奈良 厚子	主任	群馬県立女子大学
	阿天坊 耀	館長	群馬工業高等専門学校
	川島 一	書記	群馬社会福祉短期大学
	鈴出 龍見	司書	群馬社会福祉短期大学
	大竹 勤	司書	〃
	本間 文代	職員	〃
	本橋 一宏	総務係長	群馬大学
	伊比 正行	司書	〃

金井 義明	資料運用係長	〃	貞由 錦子	教学課主任
山下 哲	分館長	〃	医学分館	前橋市立工業短期大学
福島 啓介	情報管理係長	〃	子子	〃
永井 千里	司書	〃	子枝子	〃
瀧澤 憲也	情報管理係長	〃	○退職	明和女子短期大学
内田 百合子	司書	〃	羽鳥 重光	関東学園大学
羽鳥 重光	総務係長	〃	上武大学	群馬大学
竹澤 七重	臨時職員	〃	高山 寛士	工学部分館
濱野 美樹	司書	〃	木暮 弘道	〃
坂本 ひろみ	臨時職員	〃	新井 寿郎	上武大学
吉原 茂	館長	高崎経済大学	丸橋 和子	〃
下村 智恵子	嘱託	〃	小林 京子	〃
松本 有由美	嘱託	〃		

平成8年度事業計画

1. 相互協力の推進

『相互協力便覧』『会員名簿』の改訂については、『相互協力便覧』は、9月に改訂版を作成することとし、これに合わせて作業を進める。『会員名簿』は、随時改訂し、配布する。また、加盟館所蔵資料巡回展示については、各館の展示会等の情報を交換することから実施することとし、『相互協力連絡紙』を活用する。

2. 大学図書館研究会の実施

「図書館利用教育」をテーマに各館の状況を報告し、課題等を検討する。事前にアンケートにより問題点を整理する等の工夫をする。共愛学園女子短期大学を会場に見学を合わせて行う。各館で作成したガイドのマニュアルを集めて展示する。

3. 『会報』及び『相互協力連絡紙』の発行

『からっ風通信』の送付、『会報』の送付先と同じとし、刊行回数は年間2~3回とする。また、必要に応じて号外を刊行する。刊行時期については、『からっ風通信』第2号の刊行を9月の予定を8月とする他は日程どおりとする。

4. 運営委員会、総会の開催

大学図書館研究会の日程については、会場館の検討結果を受けて調整する。総会の日程については、会場館の候補が決まり次第、幹事館会議で検討する。会費の納入については、常任幹事館から文書で各館に依頼する。

平成8年度予算

収入の部

前年度繰越	25,223円
会費	85,000円
(5,000円×17)	

群馬県図書館協会

大学図書館研究会費	15,000円
預金利息	17円
計	125,240円

支出の部

A 事業費	92,000円
1. 大学図書館研究会	30,000円
2. 相互協力連絡紙（印刷費） (A4版、4頁、2回、200部)	50,000円
3. 相互協力便覧（コピー代） (60頁、20部)	12,000円
B 事務費	30,000円
1. 総会費	10,000円
2. 会議資料（コピー代） (10頁、40部、2回)	10,000円
3. 通信費 (80円×2回、190円×3回)	10,000円
C 予備費	3,240円
計	125,240円

編集後記

- ・各館が抱えている問題、研究会では具体的な解決策には至りませんでしたが、意見交換の場を増やすことで、一歩ずつでも前進していけたらと思います。
- ・加盟館トピックス、どしどし情報を寄せ下さい。